

報 告

第32回医学情報サービス研究大会 参加記

藤原 純子

2015年7月18日(土)~19日(日)に北海道大学で開催された第32回医学情報サービス研究大会(以下、MIS32)に参加し、リポジトリ部として近畿病院図書館協議会共同リポジトリKINTOREについて発表させていただいたので報告する。また、まだMISに参加されたことのない病院図書館員にも、MISの面白さ、素晴らしさをお伝えし、参加のきっかけになればと思う。

MISは“Learning from each other!”のもとに所属や館種を超えて集まった生命科学系の情報専門家が学び合う会である。年1回、全国各地で開催され、今年は北海道大学が会場であった。私自身にとって今大会は、MIS23、28、30、31に続いて5回目のMIS参加である。MIS28では実行委員もさせていただき、貴重な学びの機会となった。

今回は大会2日前の16日に四国に上陸した台風11号の影響で近畿地方は大雨に見舞われた。前日には飛行機の欠航も相次ぎ、MIS開催当日の早朝のフライトを予定していたので、前日は台風情報と運行状況を気にしながら過ごした。当日、幸い飛行機は予定どおり運行してくれたが、京阪神地区は鉄道の運休が相次ぎ、空港までたどり着くのに予定どおりにいかない方もいらっちゃった。MIS32のWebサイトでも参加が困難になった場合の連絡先を掲載されるなど対応が行われていたが、そのような天候でも189名の参加があったと報告されており、盛況

であった。大会記念グッズや懇親会は実行委員の参加者への思いや大会への思いが強く現れていると毎回感じる。大会記念グッズも、どれもセンスがよく素敵で迷ったが、LED付きのボールペンがお土産に喜ばれた。大会後に電池交換をすると継続して使えることがFacebookで告知されており、二重の喜びであった。

懇親会ではおいしいお料理や北海道のお酒、ピアノ演奏のパフォーマンスなど、とても楽しい会であった。もちろん、日ごろお会いできない同業者の皆さんや企業の方々ともお話しでき、有意義な時間であった。MISに参加される時は、ぜひ実行委員が趣向と心をこめて企画される懇親会も含めてのご参加をお薦めする。過去の大会については、Webサイトや、本誌のバックナンバーにも会員の参加記が掲載されているので、ぜひご覧いただきたい。

大会記念講演は、北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター高田礼人教授の「エボラウイルス研究の現状と展望」についてのお話であった。2014年にアフリカを中心に猛威をふるったエボラウイルス研究の第一人者で「情熱大陸」や「プロフェッショナル仕事の流儀」などのテレビ番組にもご出演でご存知の方も多であろう。エボラウイルスの基礎知識から、実際の研究施設などの写真もご紹介いただきながらの講演で、ただ致死率が高く怖いものとして捉えていたエボラウイルスに対して、正しい知識と研究の現状を知ることができ、とても貴重な時間であった。

続いての口頭発表では、まずMIS代表幹事で

順天堂大学の青木氏の「エボラ出血熱文献のビブリオメトリックスによる分析」で、記念講演のテーマと関連しており興味深かった。ビブリオメトリックスによる分析が病院などでもできれば、同僚の研究者のサポートやコミュニケーションのきっかけになるだろうと思った。ほかにも近年公共図書館での健康情報サービスの報告が増加しており、今回も素晴らしい取り組みが多く感心した。病院図書館では一人職場ゆえ目先の業務にとらわれてしまうが、全国のさまざまな素晴らしい取り組みや研究に触れることで、刺激を受け、反省し、視野を広げることができた。

発表に関しては、前年の2014年度に機関リポジトリプロジェクトチームでの活動をする中で、活動報告や広報の一環としてMISでの発表を目標としていた。2月23日にMISの演題募集が始まると、すぐに演題応募……とはいかず、締切1日前に応募し、10日後に演題採択通知が届いた。年度末で忙しかったのだろうか。採択後は、リポジトリ部の谷口氏、寺澤氏、増田氏が当日掲示するポスターやチラシのデザインや発注、ロゴマークの作成、ロゴ入りTシャツのデザインと作成などさまざまな準備を分担してくださった(図1)。



図1 ポスターなど

おかげで筆者はスライド作成と発表準備に専念することができ感謝している。発表演題は「近畿病院図書室協議会共同リポジトリ“KINTORE”—構築までの500日とこれから—」とし、病図協が共同リポジトリ構築を始めてからの取り組みと、リポジトリの意義、現状、今後の計画を発表した(図2)。プログラムは2日目の最後から2番目であったが、2名の方からご質問いただき、発表後も数名の方からご賛同や応援のお声をいただいた。他にも病図協の書籍販売ブースやリポジトリポスター掲示前でお声かけやアドバイスをいただき、嬉しかった。特にKINTOREロゴの入ったTシャツは評判がよかったことを記しておく(今回はリポジトリ部員の個人負担で作成したため、今のところ販売などは予定していない)。

共同リポジトリ“KINTORE”はこの報告を執筆している10月現在、試験運用を行っており、会員の担当者がテスト投稿や本投稿を行っている最中である。2年でここまで来たが、そもそも病図協が共同リポジトリを意識するきっかけとなったのが、MIS29(第29回医学情報サービス研究大会:築地大会)である。私たちにきっかけを与えてくれたMISで、その3回後に発表することができ、嬉しく思った。今後、KINTOREの運用を通してより病院図書館員の存在が大きく重要なものとなり、病図協も学術情報流通の健全化に貢献できるようになることを願っている。

最後に、今回の発表に際してご協力いただきました皆さまに感謝申し上げます。



図2 発表の様子